

平成 27 年 12 月 3 日  
九州地方整備局  
九州技術事務所

**九州地整初！九州管内の維持・災害協定業者を対象としたバックホウの遠隔操作訓練を実施します。**

近年、豪雨が増加傾向にあり大規模な災害が多発する中で、危険な災害現場での復旧工事の安全確保が重要となっています。より安全に工事を実施する手法として遠隔操縦式の重機の使用が考えられ、国土交通省九州地方整備局九州技術事務所では、平成 15 年に簡易遠隔操縦装置、平成 26 年に遠隔操作が可能な分解組立型バックホウを導入し、より安全な災害復旧のための取り組みを推進しているところです。

一方で、実際の現場における復旧工事において、遠隔で重機を操作できる技術者が不足しており、人材育成が急務となっています。

災害発生後に応急復旧工事を実施する維持・災害協定を締結している建設会社を対象として、危険な現場から離れた場所より操縦する技術者を育成するため、**遠隔操縦式バックホウ操作訓練**を実施します。

記

- 日 時：平成 27 年 12 月 8 日（火） 9：30～17：00  
12 月 9 日（水） 9：30～17：00

※雨天等の場合は中止することがあります。

※当日の取材方法については別添をご覧ください。

- 訓練内容：別添における表－1 のとおり
- 場 所：九州技術事務所（別添における図－1 を参照）
- 参加人数：90 名（現場代理人 45 名、オペレーター 45 名）

（福岡県・佐賀県の直轄事務所における維持・災害協定業者を対象）

お問い合わせ先

国土交通省 九州地方整備局 九州技術事務所（久留米市高野 1 丁目 3 番 1 号）

副所長 石田 直己（いしだ なおみ）

施工調査・技術活用課長 井手 隆幸（いで たかゆき）

火山防災減災課長 坂井 佑介（さかい ゆうすけ）

電 話 （0942）32-8245（代表）

■ 訓練内容

表-1 遠隔操縦式バックホウ操作訓練行程

時間	項目	
9:00 ~ 9:30	受付	
9:30 ~ 9:35	開会挨拶	
9:35 ~ 9:45	訓練概要説明	
10:00 ~ 11:30	グループ行動①	【講義】無人化施工技術の概要と活用事例
11:30 ~ 12:30	休憩	【講義】分解組立型バックホウ等の取り扱い方法
12:30 ~ 14:00	グループ行動②	【講義】無人化施工の現場管理
14:00 ~ 15:30	グループ行動③	【操作訓練】直接目視方式
15:30 ~ 16:55	グループ行動④	【操作訓練】直接目視+モニター方式
16:55 ~ 17:00	閉会挨拶	【視察】災害対策用機械
17:00 ~	解散	※訓練参加者を複数のグループに分け、上記の訓練項目を順次実施

■ 取材方法について

- ・ 12月8日(火)のみを取材対象とします。
- ・ 当日の取材対象は、開会挨拶、訓練概要説明、閉会挨拶、グループ行動【操作訓練】・【視察】です。  
 ※取材対象となる訓練項目の実施場所と実施時間は表-1及び図-1のとおりです。  
 ※時間は訓練状況により前後することがあります。予めご了承下さい。
- ・ 操作訓練では重機が動きます。安全確保の観点から、取材にあたっては係員の指示に従って下さい。

九州技術事務所構内図

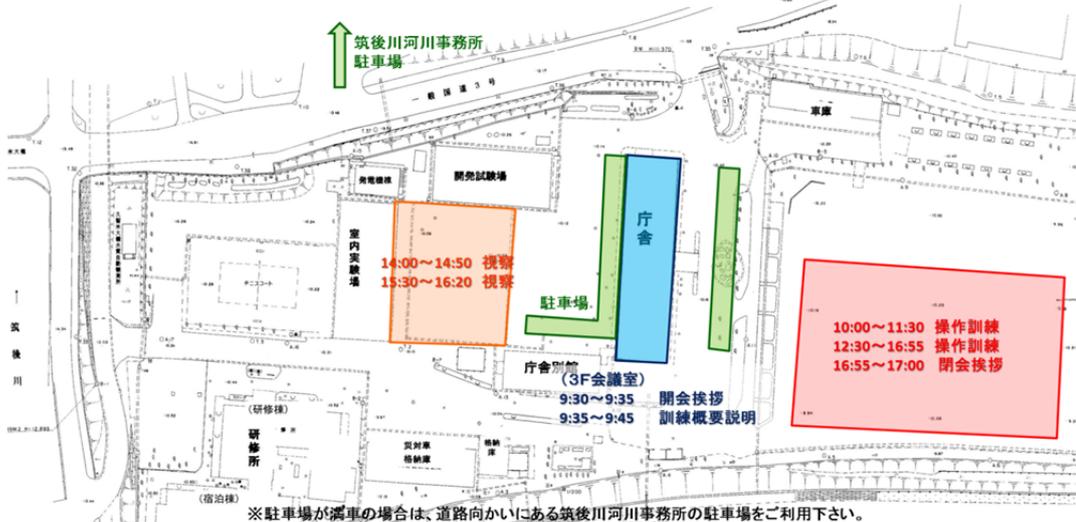


図-1 取材対象とする訓練項目の実施場所と実施時間

## ■遠隔操縦式バックホウとは

工事を遠隔地より安全かつ円滑に行うため、離れた位置からラジコン送信機により遠隔で操作が可能なバックホウのことです。



## ■遠隔操作の施工方式

遠隔操作の施工方式には、重機を直接目視しながら操作する「直接目視方式」、直接目視にモニター映像を併用する「直接目視+モニター方式」、モニター映像のみで操作する「モニター方式」があります。今回の訓練では、「直接目視方式」、「直接目視+モニター方式」の訓練を行います。

<直接目視方式>



<直接目視+モニター方式>



## ■九州技術事務所が保有する遠隔操縦式バックホウ

通常のバックホウに簡単に装着するだけで遠隔操縦機械仕様とすることができる簡易遠隔操縦装置「ロボQ」、12ブロックに分解しヘリで空輸することが可能かつ遠隔操縦にも対応した分解組立型バックホウなどを保有しています。

<簡易遠隔操縦装置「ロボQ」>



<分解組立型バックホウ>



## ■遠隔操縦式バックホウの活用事例

遠隔操縦式バックホウは、二次災害の恐れがある危険な現場において、安全な場所から復旧工事を行うために活用されています。



平成 24 年鹿児島県垂水市牛根境



H27 鹿児島県垂水市深港川の土砂崩落現場

## ■操作訓練内容

九州技術事務所構内で、離れた場所から遠隔操縦式バックホウを操作し、移動・掘削・排土の作業を経験します。



※写真はイメージ（中国地方整備局提供）であり、実際の訓練状況は異なります。